

式 辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。ご卒業される皆さんを温かく励まし、ここまで支えてこられたご家族や保証人の方々にも深く感謝を申し上げますとともに、あらためてお慶びを申し上げます。

4年前、皆さんが入学された2022年の春は、まだ新型コロナの猛威が続いている時期でした。翌2023年5月に感染法上の分類が引き下げられてひとまず落ち着きを取り戻したものの、友達と会話を楽しんだり、一緒に食事をしたり、といった場面では引き続き、制約が付きまとったことと思います。

そうした環境の中ではありませんでしたが、皆さんは学業に、そして部活動に邁進し、中京大生としての本分を全うしてくれました。コロナ禍という逆風の中で努力を重ね、自らを成長させ、こうして卒業の日を迎えることができた。そのこと自体を、一つの試練を乗り越えた成果として誇りに感じ、自信を持ってこれからの人生を歩んでいってください。

ところで本日、ぜひ申し上げておかねばならないのは、2月に開かれたミラノ・コルティナ冬季オリンピックについてです。本学からは卒業生と在学生、合わせて10名の選手が出場し、スポーツ科学部3年の木村葵来選手が見事、スノーボードビッグエアで、この大会で日本勢初となる金メダルを獲得しました。学部生の金メダルは夏・冬のオリンピックを通じて史上初という快挙でした。フィギュアスケートでは三浦璃来選手・木原龍一選手の「りくりゅうペア」が金メダル、スポーツ科学部4年の鍵山優真選手が男子シングルで銀メダルに輝き、団体でも2大会連続の銀メダルでした。さらにスキーのモーグルでも堀島行真選手が銀と銅を1個ずつ手にするという活躍で、中京勢が、日本のメダルラッシュに多大な貢献を果たすこととなりました。惜しくもメダルに届かなかった選手もおおいに健闘をみせ、オリンピックという大きな舞台で、一人一人がこれ以上ないようなパフォーマンスを披露してくれたことを、本学を代表して、心から讃えたいと思います。

皆さんもご存じのとおり、本学の校訓は「真剣味」、建学の精神は「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」であり、その源流にあるのは、江戸時代の水戸学の「文武不岐」の精神です。学術とスポーツを別個のものだと考えるのではなく、車の両輪のように一体でとらえてこそ、バランスの取れた人間形成がかなう、とする考え方です。今回の中京オリンピックの活躍は、不屈の精神で自らの限界に挑み続ける姿が広く共感を呼んだわけで、まさに「文武不岐」を体現するものであります。「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」という四大綱にのっとったものであったともいえましょう。

学校法人梅村学園は2023年の創立100周年、中京大学は2024年の開学70周

年という節目を経て、新たな歴史を積み重ねつつあります。今回のミラノにおける快挙は、そこに輝かしい1ページを書き加えるものです。人々の記憶の中に長く刻まれる時間を共有し、感動を分かち合えたことを、皆さんもぜひ、誇りにしていっていただきたいと思います。

さて、こうした嬉しい出来事の方で、オリンピックの閉幕から日を置かずして、世界を大きく揺るがすニュースが飛び込んできました。アメリカとイスラエルによるイランへの攻撃です。戦闘の見通しや、イランの今後の政治体制が気になるのはもちろんですが、日本にとっては、原油をはじめとするエネルギーの安定供給に支障が生じないかという点も、経済や社会生活の上で重要な問題です。影響が長期化すれば、幅広い製品の価格上昇につながる可能性もあり、慎重に見守っていかねばなりません。

国際情勢という面に焦点を当てるなら、4年前に始まったロシアのウクライナ侵攻から、今回のアメリカのイラン攻撃に至る流れは、今の世界がいかにも混沌の中にあるかを象徴しているといえるでしょう。世界の枠組みを支えてきたタガが外れてしまったような印象もぬぐえず、EU各国や中国などの動向も含め、この先、どのようなパラダイムの転換が起きるかは、誰にも正確に予測することはできません。

ただ、既存の秩序が揺らぎ、不透明さが増す中で、世界における日本の立ち位置があらためて問い直されることになるのは間違いありません。極めて難しい局面ではありますが、それは、我が国の歴史の中で、かつての明治維新や戦後の復興期に匹敵する、大きな変革期の到来を意味するものではないかとも考えます。変革期は、新しい感性と意欲に満ちた若い世代にとっては、大きなチャンスとなり得ます。これから社会の大波に漕ぎ出していく皆さんは、断じてひるむことなく、敢然と進んでいってほしいと願います。

SNSをはじめとするネット空間には日々、膨大なニュースが飛び交い、誰でも世界中のさまざまな情報を容易に得られる時代になりました。その中には悪質なフェイクや偏ったヘイトニュースも少なくありませんが、皆さんにはぜひ、本学での学びを通して培った「本質を見極める力」を発揮し、正確で有用な情報を選び取ってほしいと思います。情報をうまく取捨選択し、しっかりと分析と熟慮を重ね、主体的な行動に移していくことができれば、劇的に変容する時代の中で、新たな価値を創り出していくことは十分に可能なはずで、自分の手で時代を切り拓くのだという強い気概をもって、新たな一步を踏み出していてください。

最後になりましたが、中京大学は、卒業生の皆さんにとって誇り得る母校であり続けるよう、今後もとゆまず改革を続けてまいります。教育と研究、さらに社会連携・社会貢献に一層注力し、地域や社会に欠くべからざる教育機関として発展していけるよう、教職員一同、全力で努めてまいります。

皆さんも、中京大学で過ごした日々を胸に刻み、挑戦を続けていてください。

誰しも順風満帆なときばかりではありません。手痛い失敗に見舞われ、くじけそうになることもあるでしょう。そんなときこそ、校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を思い出し、自信を持って、しなやかに、自らの道を切り拓いていってください。皆さんの前途が、明るく輝くものであることを確信しています。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

令和8年3月19日

中京大学長
梅村清英